

「つながり合い 学び合う 修立っ子の育成」

□平成30年5月29日（火） 於：鳥取市立修立小学校

□アドバイザー 教育実践研究家 菊池 省三 先生

1 菊池先生による示範授業

「主体的・対話的で深い学び」をめざし、子どもたちが成長する授業づくり

○授業の中で子どもたちにその場に合った態度目標を示し、ほめること認めることで、価値ある言葉を子どもたちの中に浸透させていく。

○ペアやグループなどで対話を重視した授業で、子どもと子どもをつなげていく。

○一人一人考えが違うこと、自分らしい考えを認め大事にしていく。

(1) 示範授業 3年2組「コミュニケーションの大切さ」

主な展開

① 4コママンガの1枚目の絵（ボールが当たって窓ガラスを割った子ども）を提示し、どのような場面の絵か考えさせる。

② 隣同士で相談する。友だちの意見も取り入れながら何の絵か発表させる。

③ 3枚目の絵（子どもを怒るおじさん）を提示し、どんな場面か予想させ、対話させる。

④ 2枚目の絵（お金を渡そうとする子ども）を提示し、子どもとおじさんどちらの味方か自分の考えを書かせる。理由も書く。

⑤ 子ども派11人、おじさん派12人で作戦会議を開く。4人ずつぐらいのグループで。（赤鉛筆で友達の意見も書き加える。）

⑥ それぞれの考えを発表させた後、子ども派、おじさん派が自由に動いて話をする。

⑦ 4枚目の絵（お母さんが「訴えます。」）を提示し、3人の中で幸せな人がいるかどうか考えさせる。

⑧ 「どうしたらいいか相手にきちんと話す。」「コミュニケーションの大切さや必要性」に気づかせていった。

・ 黒板の左端に、「やる気のしせい」「きりかえスピード」「音を消す」「ひとりひとりちがう」「自分らしさ」などの態度目標を示し、授業の中で時々そこに戻り、できるようになればほめて認め、できていない場合は少し待ってほめながらできるのを待つようにして、きちんと規範を示されていた。

・ 子どもたちの変化ややる気のある態度、友達とは違う自分らしさを出した意見を見逃さず、教師がほめたり教室のみんなで拍手したりして価値づけることで、子どもたちの学ぶ意欲を引き出しており、ペアやグループでの対話を重視したスピード感あふれる授業であった。

(2) 示範授業 4年2組「こんな人間になりたい」

主な展開

① 「こんな人間になりたい」を考えノートに書く。

② 自由に友だちと対話する。

③ 「こんな人間になりたくない」を考え、ノートに書く。

- ④ 自分のノートを持って友だちと対話する。（友だちの考えを聞いて書き加える。）
- ⑤ ポスターを見て「人に微笑む」「人を嘲笑う」人をわらうひとですか？人にほほえむ人ですか？
- ⑥ Aの人になりたいか、Bの人になりたいかノートにかく。その理由も書く。
- ⑦ どんな人に手をさしのべているか考える。
- ⑧ 「今困っている友だちやいじめにあっている人、体に障がいがある人、差別されている人、そんな人たちにほほえんで手をさしのべることができますか？」

- ・学級の子もたちの人間関係作りの元になる「こんな人間になりたい」ということを考えることのできる授業であった。授業の中で子どもたちの主体的な活動や対話を重視し自由に教室を歩き、途中から自分の意見が変わったり友だちの意見に賛同したりすることで学びを深めることができた。
- ・自分の考えを書くとき「予想」という言葉を出され、予想だから間違っているかもしれないことを知らせ、自分なりの考えやその理由が引き出されるようにされていた。「読む力」や「予想する力」を大事にし、相手の気持ちの先を読んだり、こうじゃないかと自分で予想して考えたりすることの大切さや必要性を感じることができた。
- ・人の意見と「同じです。」で終わるのではなく、自分の言葉で意見が言えた子をほめ、「自分らしさを出し合う」ことを大切にした授業であった。友だちの意見と全く同じではないので、自分らしさが表れた発言をほめることで、「一人一人ちがっていい」「一人一人のよさを認める」ことの大切さを学ぶことができた。

(3) 示範授業 6年「変わらぬ友情」

○主な展開

- ① 「80歳の今も同窓会～変わらぬ友情～」というポスターを提示する。
- ② 「変わらぬ友情とは」どういう意味だと思うか一人一人ノートに書く。ペアで対話。
- ③ 「同窓会に呼んでももらえない人はどういう人か？」
- ④ 「小中学校の時、周りの人にいやなことをしていたそうです。だから何十年たっても、その人に会いたくないそうです。」という言葉からどんなことが学べるか自分の考えを書く。
- ⑤ 「今の自分が未来を決める。」「また会いたい。」と思ってもらえる人とはどういった人の事か。
- ⑥ 卒業式に向けてまた会いたいと思ってもらえる人になるには、今何をがんばらないといけないのか自分の考えを書く。「みんながまた会いたいという仲間になって変わらぬ友情を温め合おう。」

- ・「迫力姿勢」「自分から立ち歩く」「男子女子関係なく」「対話するときのめあて」などの態度目標を黒板に示しながら、子どもたちに学習規律や価値ある言葉を入れておられた。短い言葉で目標となる言葉を示し、授業の中で時折そこに立ち返り、子どもたちを認めほめることを通して意欲を持たせていた。
- ・自分の言葉で言えた子、「自分らしさ」を出して自分の言葉で考えを言えた子を拍手でほめ、自分らしさを発揮して授業に参加していくことの大切さを示してくださった。
- ・対話する相手と口角を上げて笑顔で話すこと、友だちの発表に対して「リアクション」することを大切にし、コミュニケーションの大切さや必要性を感じることができた。また、それらにより、子ども同士のつながりがより一層強まることが分かった。
- ・最後は自分自身のことに立ち返らせ、今の自分ができること、6年生として3月の卒業に向かってできることをしっかり考えさせることにより、自分の生き方について考えることができたと思う。

2 菊池先生による講義で学んだこと

- ・参加者によるコミュニケーションゲームを体験し、「笑顔」「身振り手振り」「顔の上半分の目の表情」で相手をほめることの必要性や、対話をするときの公式（内容＋声＋笑顔）×**相手軸に立った思いやり**を実感することができた。
- ・ほめるときの合言葉3S（サ行で始まるほめ言葉、例えば、さすがだね すばらしい すごいね すてきだね そうだね 成長したね さいこうだ）を使って相手をほめる。
- ・圧倒的な〇〇〇を大事にする。例えば、圧倒的な読書量、語彙量、コミュニケーション力、読む力、パフォーマンス力、書く力など
- ・授業の中で大切にしたい10のめあてを教えていただいた。指導案の中に表す表のめあて（教化）である知識・技能に関するめあて以外に、9つの裏のめあてがある。裏のめあて（感化）は「教師の見る目」が大切である。学級経営的な配慮、学習規律の醸成、学び方・学習用具の定着、子ども同士の横の関係づくり、逆転現象を生み出すしかけ、動きのある学習展開、美点凝視でほめる声かけ、笑顔・ユーモアのあるパフォーマンス、オープンエンドの授業展開などのめあてを教師は大切にし、自己表現力を磨いていきたい。
- ・発言のさせ方について、まず、大前提として「体を使ったパフォーマンス」子どもの発言に対する「圧倒的な反応スピード」「徹底的な寄り添う姿勢」が必要であると学んだ。「攻め」→「受け」→「返し」の超微細技術でほめる言葉かけの内容とタイミング、教師のパフォーマンス力、拍手をして価値付け全員に伝えることなど教師の一つ一つの動きや反応の仕方、声かけなどが子どもたちの成長を促すとても重要なポイントとなる。

3 今後活かしたいこと

- ・子どもたちのよさを認める教師による言葉かけや、自分の考えを友だち同士で伝え合う対話を多く取り入れた学習展開を工夫し、子ども同士で交流しながら考えを深めていくことができるようにしていきたい。
- ・動きがありスピード感あふれる授業をめざし、教室が子どもたちの安心できる居場所になるように、教師自身の子どもを見る目を養うことの大切さを学んだ。叱るのではなく「切り替えスピード」「やる気の姿勢」「自分らしさ」などの言葉を授業中に示しほめることで、子どもたちの意欲を引き出し、自分で考え自分で動くことができる子どもたちを育てていきたい。
- ・教師自身がコミュニケーションゲームを体験することを通して、対話が成立するには、話す側、聞く側が、5対5の関係になること、内容、声、笑顔にプラスして、「相手のことを思いやる心」がとても大切であると改めて気づかされた。菊池先生が示された1時間の授業の中での大切にしたいめあて「教師の見る目をもって、子ども同士の関係をつくっていくような配慮やしかけ、教師のパフォーマンス力、美点凝視でほめる声かけ」などを、授業の中で大切にし、子どもが主体的に学ぶことができるような授業改善をしていきたい。
- ・「一人をつくらない」「一人が美しい」「一人も見捨てない」「自分らしさ」というような視点を持ち、教師が子どもたちを「ほめて、認めて、励まし」小さな成長をも見逃さず価値づけをし、みんなが伸びていくことができるように共有していきたい。
- ・「主体的・対話的で深い学び」にしていくためにも、教師が授業の中で子ども同士をつなぎ、言葉やコミュニケーションを大事にしながら子どもたちの成長を促していきたい。
- ・示範授業を追試し、教師の動き、子ども同士の関わらせ方、ほめ方などを実際に自分で授業をしてみることによって再確認していきたい。